

五月八日

春のいぶき

①

☆身近な「春」を短歌や俳句で表現しよう

①教科書P38～39を読む

②短歌や俳句にしたい題材を選ぶ

★条件

①身近であること

②五月上旬のものであること

☆特例

外出自粛が要請されているため、今回に限り、

【今年のこと】でなくてもよい。

題材ストック

題材	感じたこと
並木道の桜が葉になった	今年の桜は、あまり人に見られなかったのだろうか。
気温が少し高くなってきた	また夏が来る。春を感じる時間が少なかった。
ベランダに出ると気持ちがいい	今できる「春探し」はこのくらいかな。

ヒントコーナー（フートには書かない）

短歌：【五・七・五・七・七】の三十一文字（または三十一音）、季語は要らない。

俳句：【五・七・五】の十七文字（または十七音）、季語が必要。

テクニック例：反復法（くりかえし） 倒置法（語順を逆にする） 押韻（似た音で切る） 体言止め 比喩……

ちょっとダサイ：○○はね、などで無理やり音をそろえること

③ 短歌・俳句をつくる

見直し・吟味を繰り返し、より洗練された作品にする。

試作①

ベランダでね ひなたぼっこが いい気持ち できるかぎりの 春を感じる

試作②

ベランダで おひさまポカポカ いい気持ち できるかぎりの 春を感じる

作品

やわらかな 春の日が差す ベランダで できるかぎりの 春を感じる

作品の解説

外出自粛が要請されているので、あまり外に出られません。だからベランダで日を浴びている時間が長くなりました。外では人こそ少なくなりましたが、風の音や鳥の声はいつもの春です。そして、やわらかく温かい太陽の光も、いるもの春です。

五月八日 ここまで